

平成 24 年 1 月 20 日  
原子力安全対策課  
( 2 3 - 4 5 )  
<16 時 30 分記者発表>

## 美浜発電所 2 号機 A-加圧器スプレ弁グランドリークオフ 流量の増加について（調査状況）

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

美浜発電所 2 号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力 50 万 kW）は、平成 23 年 11 月 9 日頃から、2 台ある加圧器スプレ弁<sup>※1</sup>のうち、A-加圧器スプレ弁のグランド部から 1 次冷却水をドレンタンクに回収するグランドリークオフ<sup>※2</sup>配管の温度が若干高めであったことから、当該配管内の流量等の監視を行っていたが、配管内の流量が液体廃棄物処理設備の処理能力を超える可能性があったことから、12 月 7 日 20 時から出力降下を開始し、8 日 3 時 15 分に発電を停止、4 時に原子炉を停止した。

なお、格納容器内の放射線モニタや加圧器水位等の運転パラメータに変化はなく、格納容器内の監視カメラによる点検で漏えいは認められなかった。

原子炉停止後、当該弁の外観目視点検を実施したところ、1 次冷却水の系統外への漏えい等の異常は認められなかった。

この事象による周辺環境への放射能の影響はない。

- ※1 加圧器の圧力が設定値（15.59MPa）を超えて高くなった場合に、加圧器内に水を拡散し、圧力を調整する弁。
- ※2 加圧器スプレ弁からの漏えいを系統外に出さないために設けている閉塞された系統。そこを流れる 1 次冷却材をグランドリークオフ水という。

【平成23年12月7日、12月15日 発表済】

美浜発電所 2 号機は、12 月 18 日より定期検査を開始し、燃料を取出した後、系統の水抜きを行い、当該弁の分解点検を実施した。

その結果、1 次冷却水が弁棒に沿って上昇するのを防ぐために弁棒を覆っている金属製の蛇腹（ベローズ）の折り目（内側）の溶接部 1 箇所に、全周にわたる貫通割れが確認された。

また、B-加圧器スプレ弁についても、分解点検を実施した結果、ベローズに同様の貫通割れが確認された。

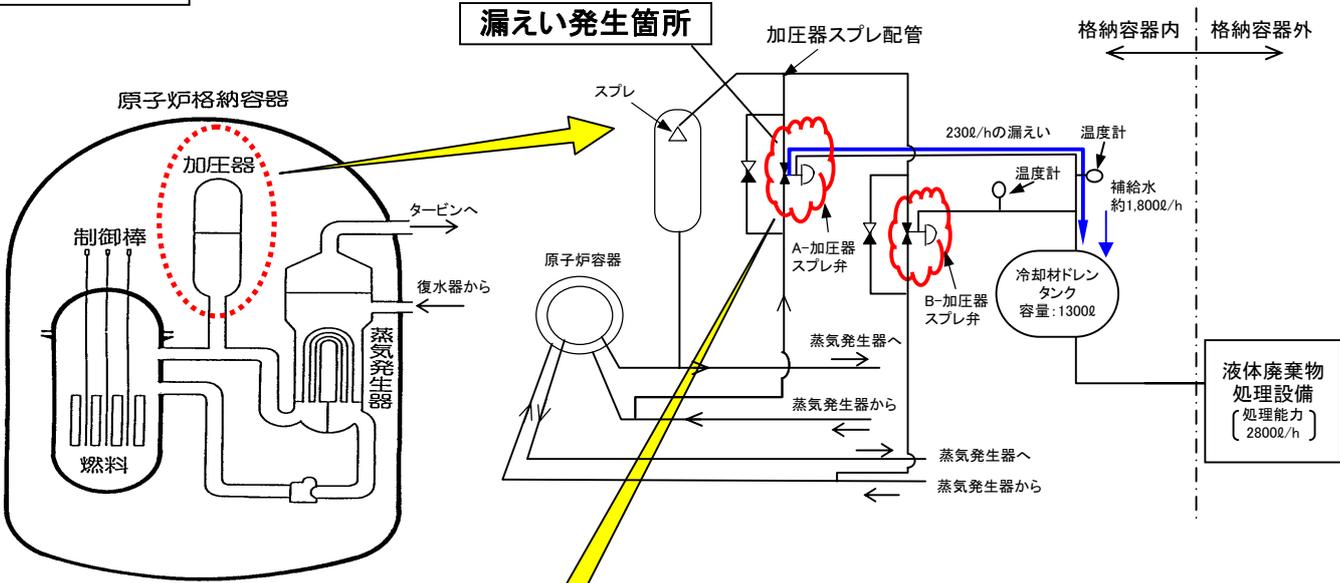
今後、これらベローズの材料成分分析、破面観察等の詳細調査を実施する。

問い合わせ先（担当：富田） 内線 2352・直通 0776(20)0314
--

美浜発電所2号機 A-加圧器スプレ弁グランドリークオフ流量の増加について(調査状況)

(1/2)

系統概要図

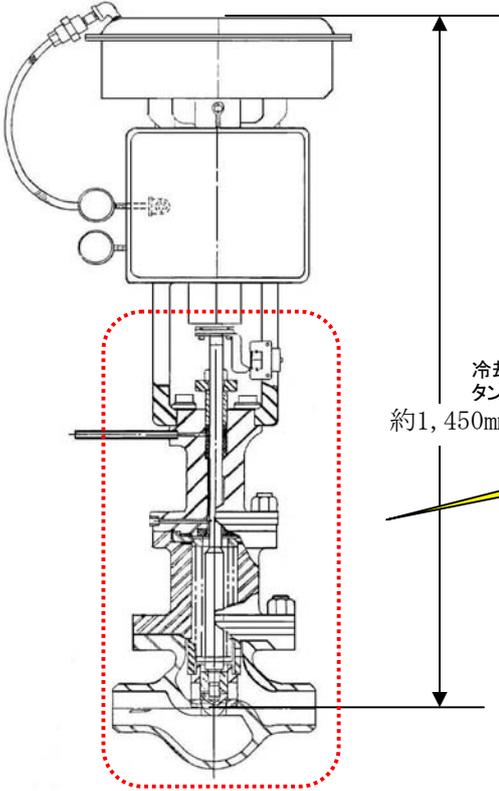


平成23年11月9日頃：  
グランドリークオフ配管の温度が若干高めであることを確認

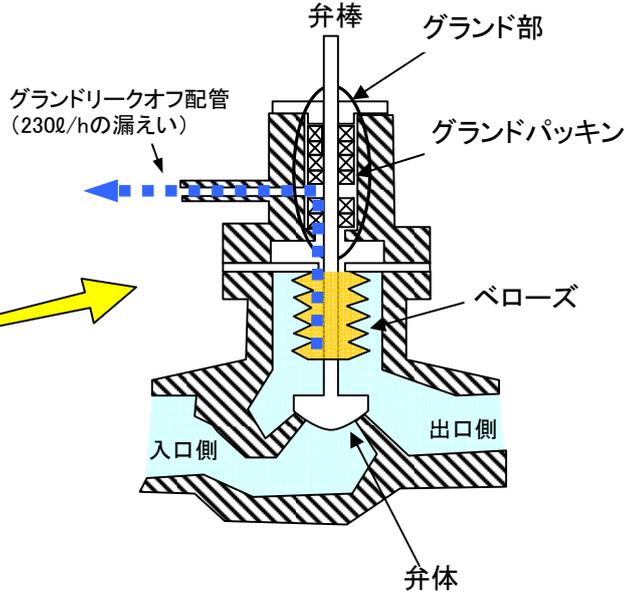
↓

グランドリークオフ流量等の監視強化

加圧器スプレ弁概要図



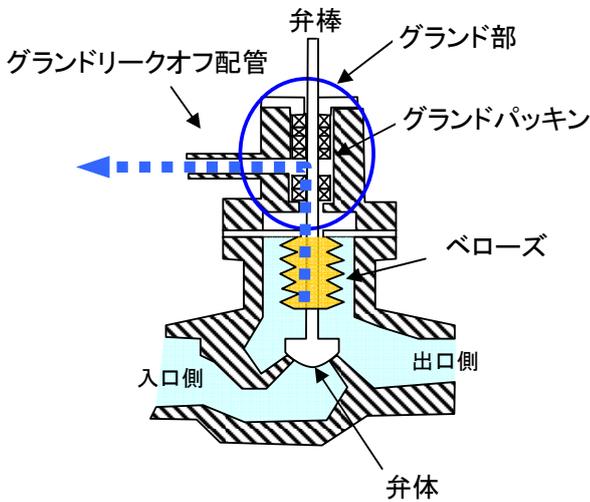
加圧器スプレ弁の拡大図



美浜発電所2号機 A-加圧器スプレ弁グランドリークオフ流量の増加について(調査状況)

(2/2)

加圧器スプレ弁



A-加圧器スプレ弁(弁棒、弁体、ベローズ)

B-加圧器スプレ弁(弁棒、弁体、ベローズ)

